

「あなたに任された家」

～あなたが遣わされた地～

Ⅱ 歴代誌 16 : 7 ~ 9

私達はなぜ今の場所に存在しているのでしょうか。私達がどのような目線で生きるかによって人生は変わります。アサ王は41年間、南ユダ王国の王でした。彼の最初の人生はとても良いものでした。聖書にも「アサは父ダビデのように、主の目にかなうことを行った」（Ⅰ列王記 15 : 11）と書かれています。アサ王が主を求めたので、ユダ王国は20年にわたって安息と繁栄を享受することができました。ところが、治世 36 年目に外交問題が起りました。北イスラエルが南ユダを攻めてきたのです。アサは北イスラエルの同盟国であったアラムの王を、主の宮と王宮の宝物倉から銀と金を取り出して買収したのです。その結果争いは終わりました。その後、予見者がアサの元に来て言いました。「あなたはアラムの王に依り頼み、あなたの神、主に依り頼みませんでした。…主はその御目をもって、あまねく全地を見渡し、その心のご自分と全く一つになっている人々に御力をあらわしてくださるのです。あなたはこのことについて愚かなことをしました。今から、あなたは数々の戦いに巻き込まれます。」（Ⅱ歴代誌 16 : 7 ~ 9）アサは自分の失敗を認めず、予見者に怒りを発し、足かせをつけました。

アサ王は治世 39 年目に両足とも病気にかかりました。アサ王の心は完全に頑なになっていましたので、病の中でも主に依り頼むことをせず、治世の41年目に死にました。正しいことを言われても従うことができない心は私達にもあります。私達の心の中に神様の言葉よりも力のあるものが住んでいて、その声に従うならそれは偶像礼拝の罪であると書かれています。「聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。あなたが主の言葉を退けたので、主もあなたを王位から退けた。」（Ⅰサムエル記 15 : 22、23）

「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」（出エジプト記 20 : 4 ~ 6）神様が三代四代まで呪うのではありません。神様が定めた正しいことに従わなければ悪くなるのは当然のことなのです。

1 祈りによって傷を主に委ねよ

神様の声に従わない、偶像礼拝を断ち切るために神様はその家にそれぞれ私達を遣わしたのです。その家で私達はたくさんの傷を受けました。しかし、

いつまでもそこで立ち止まっていたはいけません。私達はイエス様が生きたとように生きるようにその家に遣わされたのです。傷を受けずに生きて人がいたでしょうか。父母を責めることができるでしょうか。私達が受けた傷を父母も受けたのです。ですからイエス様は私達の傷を背負ってくれたのです。クリスチャンとは悔い改めることができる人のことです。私達は失敗します。間違えます。ですが、イエス様の十字架を思い浮かべた時に悔い改めることができるのです。傷を負った人は傷つけてしまいます。多く癒された人は多く愛することができるのです。「私は世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる。」神様は言ってくれています。素直に神様に癒して下さいと祈りましょう。負の連鎖を私で断ち切り、私の代で終わらせます、そう決断して神様に委ねましょう。

2 あなたの家とは 役割を回復

そして、私達の家にはそれぞれ使命があります。あなたの家にしかできないことがあります。隣の家と比較せず、役割を感じましょう。「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」（エペソ 2 : 10）使命を成し遂げるために与えられた役割を回復しましょう。

3 生き方を変える 継承

私達は今任されています。正しいことを知り、私が変わる決断を任されたのです。私達に関わるすべての子ども達に正しいことを継承しなければなりません。私の家に任された大切な計画を果たせば、私達は必ず栄え、暗闇の中にいるたくさんの人達を照らすことができます。私達がどう生きるかにかかっています。良い種を蒔けば良い実が実ります。何を継承するかは私達次第です。「あなたがわたしを選んだのではありません。私があなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それはあなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。」（ヨハネ 15 : 16）